バス停に、八幡のあの子がいた。
僕の方を見ている。
僕も見つめた。

僕はあの子が好きだ。
しかし、僕は彼女の彼氏に値しないと思う。
なぜだ、そう思うから、そうなのだ。

放課後、後輩の宮村が　寄って来て、
うるさく　僕を　部の練習に誘う。

ゴールキーパーやってほしい様だ。

そこで、服を着替え、宮村には
おかえしに、ジャンプの練習を充分、
激しくさせてやった。

練習が終わったのが六時頃、もう真っ暗である。

六時十一分のバス、四十分の急行。
今日も、四時の急行には乗れなかった。
おなかは　へるし、気持ちは暗かった。

てるちゃんが来ていた、珍しい。
てるちゃんは、おばあちゃんの弟の三人娘の長女。
お母ちゃんのいとこだけど、
兄貴より、三つ年上、まだ、二十歳そこそこ、
でも、もう、お化粧していて、本当に女っぽい。

22　お化粧していて本当に女っぽい・・・・・・・・・88

Candy
in the Heart
089

萩原良昭